

福江島で、五島列島の島々や地質の歴史が作り出した景色を眺めるには、城岳展望所がうってつけです。展望所の名前は、1383年にこの場所に建てられた城に由来します。城岳展望所の標高は200mをわずかに上回るに過ぎませんが、麓に広がる平地が、流出した大量の溶岩流により形作られたことを確認するには十分です。

ここ一帯はかつて五島層群の地層の一部であった場所であり、向かって左に見える岩のような立小島と同様、もとの地表は起伏に富んでいたと考えられています。約90万年前、火山の噴火によって大量の溶岩が流出し、後に岩場となる地表を覆い尽くしました。流出が収まると、八朔台地と呼ばれる広大な平地が残されました。長い時を経て、この地は豊かで肥沃な土壌に恵まれるようになり、溶岩が形成した海岸部のゴツゴツした岩場には、様々な魚介類などが生息するようになりました。

起伏の激しい立小島の姿と、平たい台地の姿が成すコントラストは、火山活動の「ビフォア&アフター」をありありと表現しています。

さらに良い景色を求めるなら、展望所の裏手にある塔への階段を登りましょう。展望デッキから辺り一帯の絶景を眺めることができます。ここからは、左手に白石湾などの入り江がよく見えます。千年以上前、入り江は中国への学者や仏僧を運ぶために往来する帆船の、安全な泊地として使われていました。五島列島は何世紀にもわたって玄関口としての役割を果たし、それぞれの時代において、日本と中国の両文明による文物のやり取りに貢献してきました。